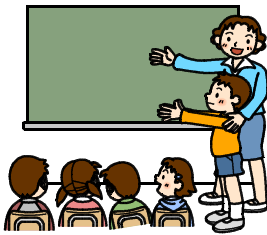


Q1： 各教科等において、言語活動を充実するにはどうしたらよいですか。

新学習指導要領が重視する言語活動の充実

各教科等における言語活動の充実、今回の学習指導要領の改訂において各教科等を貫く重要な改善の視点です。新学習指導要領総則には、「各教科等の指導に当たっては、(中略)言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童(生徒)の言語活動を充実すること。」とあります。各教科等において、国語科で培った能力を基本に言語活動を充実させて、児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めることがねらいとなります。

「言語活動の充実」という視点からの授業改善



言語活動を充実するという事は、どの教師も少し工夫すれば行うことができるものであり、特別な学習活動を求めているものではありません。これまで、各教科等の学習には言語活動が行われていましたが、その活動の目的や方法、プロセスについて、丁寧に考えられてはいなかったのではないのでしょうか。

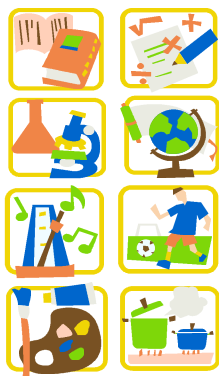
そこで、日常の授業において、話す、聞く、話し合う、読む、書くなどの場面を大切に、そのための時間を多めにとるなど、意識的に授業を変えていくというも授業改善の在り方の一つです。これまでの授業を「言語活動の充実」という視点で見直し、各教科等の指導計画についても、ねらい達成のために効果的な言語活動を適切に位置付けるなどの見直しが必要になってきます。

各教科等のねらいを実現するための言語活動

各教科等においては、言語活動を形式的に取り入れて、ただ行えばよいということではなく、「各教科等のねらいを実現するために言語活動を充実する。」ということ忘れてはなりません。量的な充実だけでなく、言語活動の価値を生かして、各教科等の学習の質的な高まりを図ることも大切です。また、意味のある言語活動を実施するためには、次のような教師の働きかけも欠かせません。

従来の「～をまとめる。」といった漠然とした学習活動については、「〇〇を□□(箇条書き、短い文、レポート、新聞、絵、図表、グラフなど)で書く。」あるいは「〇〇を発表する。」と具体的に示すことで、児童生徒が具体的に学習のイメージやゴールの姿を描くことができます。また、発表の際には、「まず・・・、次に・・・」「もし・・・だったら」「例えば」「なぜなら」などの語彙を教えることで、多様な思考活動を誘発することができます。

各教科等における言語活動充実の例



中央教育審議会答申(H20.1)の「言語活動の充実」の項には、言語に関する能力は、学習活動の基盤、コミュニケーションや感性・情緒の基盤となるという観点から、以下のような各教科等における言語活動例が示されています。

- 観察・実験や社会見学のレポートにおいて、視点を明確にしたり見学したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する。→【理科、社会等】
- 比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する。→【算数・数学、理科等】
- 仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を評価し、まとめて表現する。→【理科等】
- 体験から感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを使って表現する。→【音楽、図画工作、美術、体育等】
- 体験活動を振り返り、そこから学んだことを記述する。→【生活、特別活動等】
- 合唱や合奏、球技やダンスなどの集団的活動や身体表現などを通じて他者と伝え合ったり、共感したりする。→【音楽、体育等】
- 体験したことや調べたことをまとめ、発表し合う。→【家庭、技術・家庭、特別活動、総合的な学習の時間等】
- 討論・討議等により意見の異なる人を説得したり、協同的に議論して集団としての意見をまとめたりする。→【道徳、特別活動等】

実施上の留意点

各教科等における言語活動の充実にあたっては、全教師がその必要性を十分に理解することが重要です。また、これらの学習活動を支える条件として、読書活動の充実や学校図書館の活用、言語環境の整備も重要になってくるでしょう。